



華となれ!

宮城県仙台二華中学校
学校だより 第8号
【発行日】 令和3年2月2日
【連絡先】 022-296-8101
【文責】 副校長 加茂 博行

【校訓】 『進取創造』『至誠貢献』

【教育方針】 豊かな心と高い知性を持ち、進取の気風と創造性にあふれ、社会のリーダーとして、わが国や世界の発展に貢献できる人間を育成する。

※題字「華となれ!」には、社会に貢献できる真のリーダー（「華」=社会の中心）となってほしいという願いを込めています。

冬の雪山を満喫 中学1年で「SR冬巡検」実施

1月20日(水)に今年度最後の巡検となる「SR冬巡検」が行われました。この日は仙台市街でも最低気温 -4°C を記録しており、泉ヶ岳はそれを下回る寒さでしたが、風さえも空で凍り付いてしまったのか、風がなくて冬の巡検には絶好の天気となりました。

昨年度は、暖冬の影響で雪がほとんどなく、午後のスノーハイクが中止となりましたが、今回は数日前に降った大雪のおかげで、すべての活動を予定どおり行うことができました。

最初の活動は「我々の木」の観察です。夏と秋の巡検では、我々の木にたどり着くまで何の苦労もなかったのですが、今回は膝の高さは優に超えるほどの積雪です。長靴で斜面を登ろうとすれば、あっという間に足を取られて身動きができなくなります。そこで、活躍するのがスノーシューです。これは、「西洋かんじき」とも呼ばれる長靴に装着する道具で、足の接地面積を大きくして、ふかふかの新雪の上でも、足を取られずに歩くことができますようになります。

生徒たちは、このスノーシューをうまく履きこなして、観察をスタートしました。しかし、雪山では通常の見学ですら大変な作業になります。地面の観察をするには、当然のことながら地面が見えるまで雪を掘り進めなくてはなりません。胸高直径や樹高を測るのにも一苦労でした。でも、さすが3回目の観察となると生徒の手際もよくなって、なんとか予定していた時間通りに観察を終えることができました。



雪を掘ることから観察がスタート



観察をするのも雪の上です

その後、オーエンス泉岳自然ふれあい館で昼食を取り、元気を取り戻して、午後はスノーハイクです。生徒たちは再びスノーシューを装着して新雪の雪山へと出て行きました。途中、ツキノワグマが樹上で木の実を食べた後に、折れた小枝が残されて鳥の巣のようになった「熊棚」や野ウサギの足跡を見つけて、仙台市街では感じることでできない大自然の息吹を感じることができました。

これからの総合的な学習の時間を使って、生徒たちは3回の巡検から学んだことを、ポスターにまとめて発表します。



スノーシューで新雪を踏みしめながらスノーハイク

英語でプレゼンテーション イングリッシュキャンプを校内で開催



ポスター発表には全部で9グループが参加



12チームがプレゼン大会で発表しました

くことは、本当に難しい作業になったと思いますが、生徒たちは与えられた時間の中で、プレゼンテーションを完成させていきました。発表後は、本校のALTやバカロレアの外国人講師たちから質問を受けて、英語できちんと回答していました。困難な状況の中でも立派な発表をやり遂げた生徒たちに拍手を送りたいです。

1月25日(月)から27日(水)にかけて、イングリッシュキャンプが開催されました。

本来であれば、同じ日程で東北自治総合研修センターにおいて開催する予定でしたが、県内の感染状況を鑑み、宿泊をせずに時間を制限して、グループワークを減らし、発表を中心にして校内で行いました。

今回初めての試みとなったのが、2日目に行われた「ポスター発表」です。これは、有志の生徒たちが、自分たちでテーマを決めて、ポスターを作成して発表するというものです。有志を募るという形であったにもかかわらず、9グループ、17人の生徒がポスター発表に参加しました。「教育系ユーチューバー」の紹介や、「きのこについて」の発表など、内容も多彩で聴衆も楽しんでいました。

3日目には「プレゼン発表会」が開催されました。本来だと12グループに1人ずつALTが加わって、様々なアドバイスをもらいながらプレゼンテーションを仕上げていたのですが、今年は生徒のみで課題を見つけ、練習をするという形となりました。自分たちで課題を見つけて解決してい